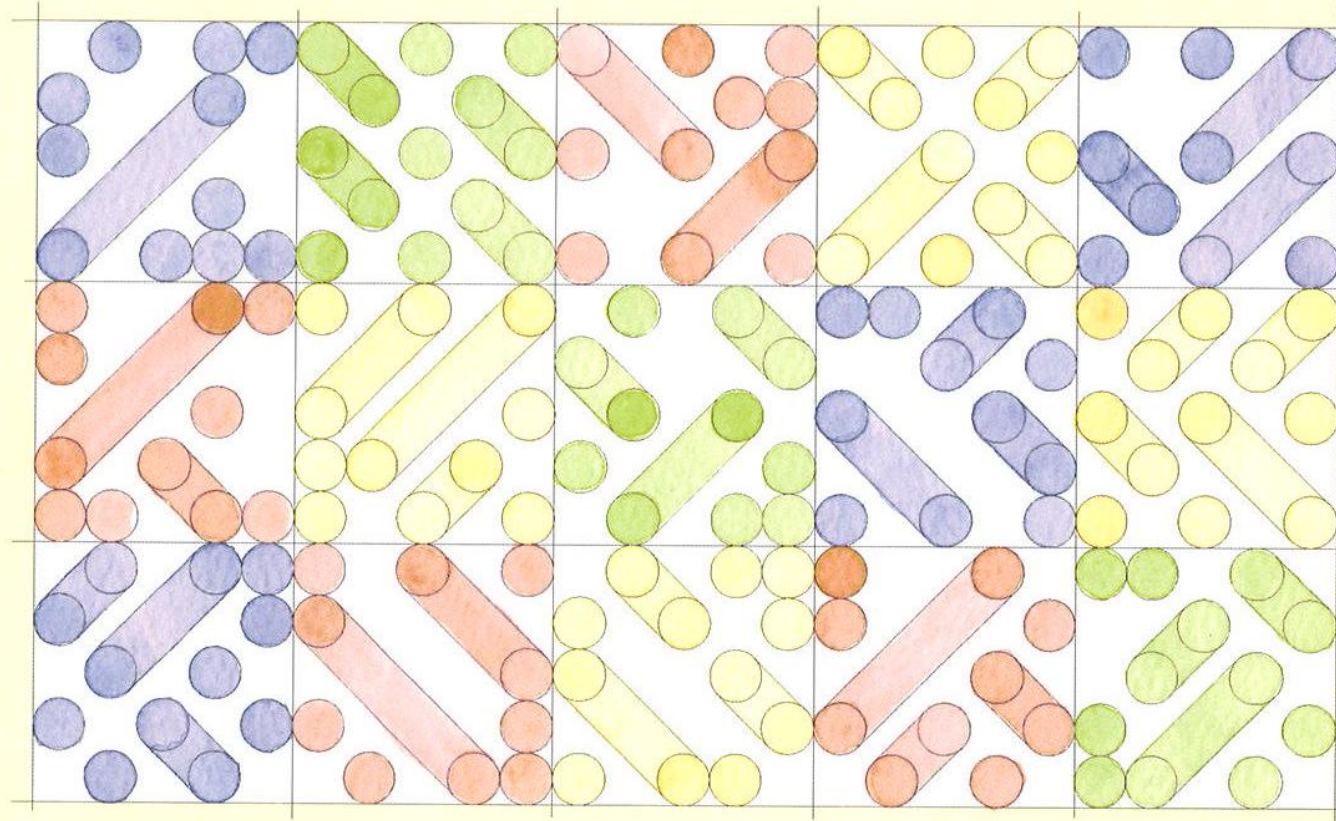


平成 27 年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「女性研究者研究活動支援事業」(一般型)
事業報告書



I センター長ご挨拶



男女共同参画推進センター センター長
藤岡 伸子

工学は人間の幸福な生活に奉仕する技術の研究・開発を使命として、私たちの暮らしを便利で快適なものにし、多くの夢を実現してきました。しかし近年、人々の求める理想的な暮らしの姿がずいぶん変わり、数値化しにくい多種多様な質的価値が幸せの要件としてますます強く意識されるようになってきました。

ものづくりで人に奉仕する工学も新たな価値に寄り添うように、より繊細で柔軟なそして感性的なものへと自ら変わっていく必要があります。これまで少数派であった女性の感性や視点を取り込んで行くことが工学の未来を切り開く上で重要であるという認識が急速に広がっています。

こうした状況の中、名古屋工業大学は文部科学省の平成 26 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択され、「男女共同参画推進センター」を発足させました。工学系は理系の中でも最も女性研究者の割合が少なく、新しい時代の工学を担うべき女性研究者を増加させその活躍を支援することが今強く求められています。少数派で孤立しがちな女性研究者が居心地よく感じ安心して研究に邁進できる環境づくりが、名古屋工業大学男女共同参画推進センターの重要な仕事です。

平成 27 年度の報告として「平成 27 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 事業報告書」を作成いたしました。

3 年間の事業期間のうち 2 年目ということもあって、女性研究者の研究業績向上に向けた支援を中心に、大学全体の男女共同参画も視野にいれながら、活動してきました。「工業大学における女性研究者支援」「工業大学における男女共同参画」として、少しずつですが、企業や行政機関（県、市町村）にも注目されるようになってきました。本報告書から、そういった現状をお伝えできれば幸いです。本年度の活動が来年度の事業最終年度の取組を加速化させるエネルギーになることを願うばかりです。

平成 28 年 3 月 名古屋工業大学男女共同参画推進センター長 藤岡伸子

II 名古屋工業大学の男女共同参画

名古屋工業大学男女共同参画宣言

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」を目指しています。あらゆる多様性が重視される今、この目標を達成するためには、工学の世界で長らく少数派であった女性研究者・技術者が、性別に関わりなく個性と能力を発揮できるような環境の整備と意識の変革が不可欠です。

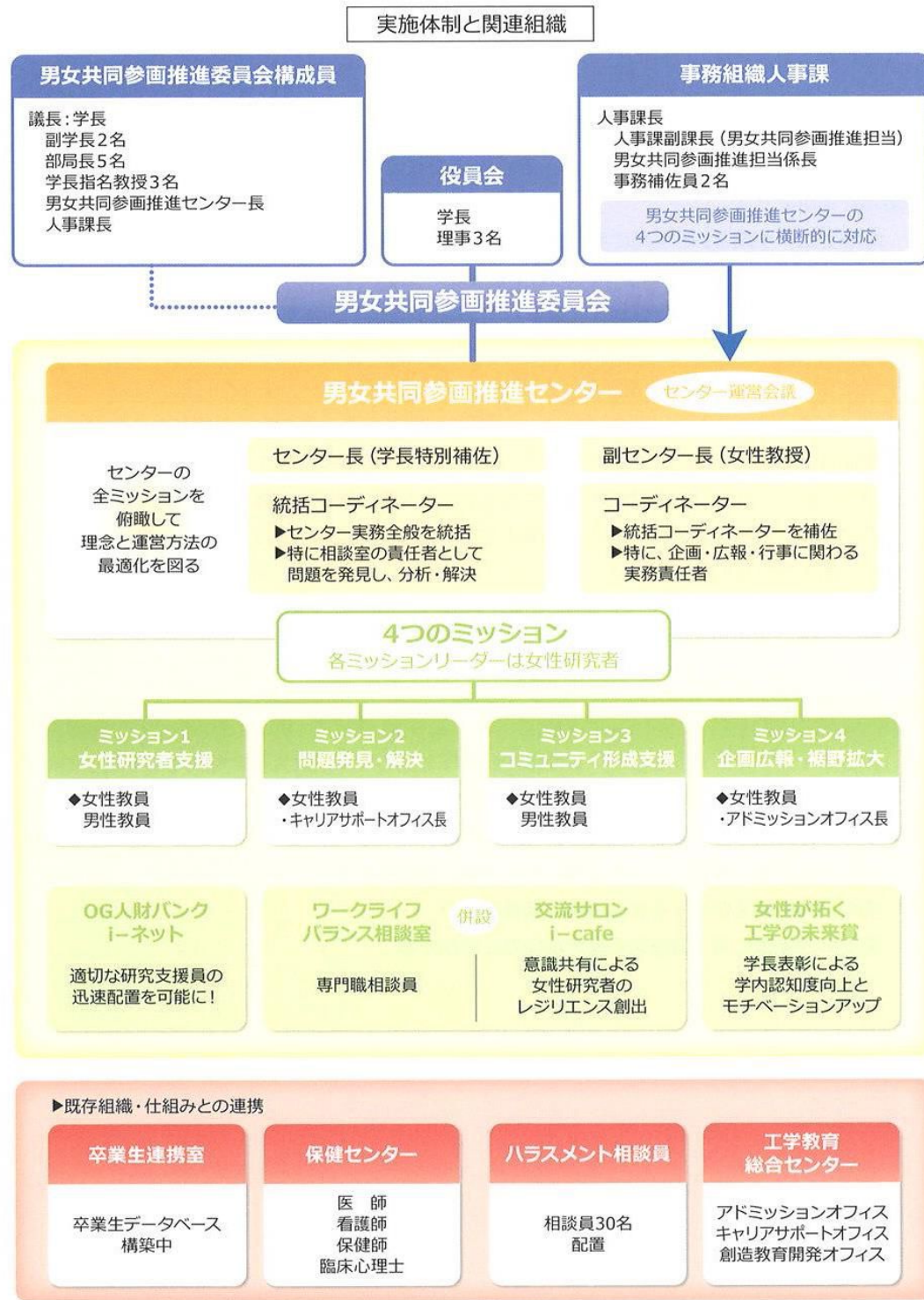
本学では、平成 21 年 1 月に学長直属の組織として「男女共同参画推進室」を設置し、取り組みを開始しました。また、平成 26 年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択を受けて、従来の施策の大幅な拡充と女性研究者の研究環境整備の加速を図るため、教職一体組織の「男女共同参画推進センター」を発足させました。実施体制が整った現在、本学は、ダイバーシティの推進が工学の活性化とイノベーション創出の鍵であるという明確な認識の下、より多くの優れた女性技術者を産業界へ送り出すこと、そして、より多くの女性研究者を工学コミュニティの重要な一員として招き入れ、その活動を弛まず支援することを重要課題と位置付けています。

この理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学は、男女共同参画社会の実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

◆基本方針

1. ポジティブアクションとして、女性限定公募等を通じた女性研究者の増加を図るとともに、女性教職員の上位職への積極的登用を進める
2. 女子学生比率を向上させ、優秀な女性技術者を育成する
3. 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
4. 男女共同参画を促進する労働環境の整備を行う
5. 男女共同参画に関する啓発活動を積極的に実施する

◆組織図



◆男女共同参画委員会等の委員一覧

平成 21 年 1 月に男女共同参画推進委員会、男女共同参画推進専門部会及び男女共同参画推進室を設置しました。その後、平成 26 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の採択を受けて、教職員が一体となった組織の男女共同参画推進センターを発足させ、男女共同参画推進委員会と男女共同参画推進連絡会、男女共同参画推進センター運営委員会を設置しました。これら委員会の委員の一覧です。

男女共同参画推進委員会委員

委員組織	氏名	職名	所属等
学長（議長）	鶴飼 裕之	学長	
学長特別補佐（議長代理） 男女共同参画推進センター長	藤岡 伸子	学長特別補佐 （議長代理）	
副学長	小畑 誠	教授	
	内匠 逸	教授	
領域長	市村 正也	教授	つくり領域
教育類長	稲井 嘉人	教授	生命・物質工学教育類
	荒川 雅裕	教授	都市社会工学教育類
専攻長	柴田 哲男	教授	未来材料創成工学専攻
	山下 啓司	教授	共同ナノメディシン科学専攻
学長が指名する職員	石川 有香	教授	
	高木 繁	教授	
人事課長	増田 理子	准教授	
	樋田 浩和	課長	

平成 27 年 4 月 1 日現在

男女共同参画推進連絡会

所 属	役 職	氏 名
男女共同参画推進委員会	委員長・学長	鵜飼 裕之
キャリアサポートオフィス	オフィス長 教授	山下 啓司
アドミッションオフィス	オフィス長 教授	高木 繁
卒業生連携室	室 長 教授	北村 正
保健センター	センター長 教授	中野 功
男女共同参画推進センター	センター長 教授	藤岡 伸子
	副センター長 教授	石川 有香
	協力教員 准教授	小幡亜希子
	協力教員 准教授	坂口 正道
	協力教員 准教授	徳丸 宜穂
	協力教員 准教授	増田 理子
	協力教員 助教	孫 晶
	協力教員 助教	武藤 敦子
	統括コーディネーター	乙部 由子
	コーディネーター	村上 侑
ワークライフバランス相談員	菊池美由紀	

平成 27 年 4 月 1 日現在

男女共同参画推進センター運営委員会構成員

職 名	氏 名
センター長	藤岡 伸子
副センター長	石川 有香
協力教員	高木 繁 徳丸 宜穂
	山下 啓司 増田 理子
	小幡亜希子 孫 晶
	坂口 正道 武藤 敦子
統括コーディネーター	乙部 由子
コーディネーター	村上 侑
ワークライフバランス相談員	菊池美由紀
スタッフ	小笠原陽子
	内山 晃子

平成 27 年 9 月 1 日現在

Ⅲ 事業報告

名古屋工業大学の女性の目標と現状

◆名古屋工業大学の目標

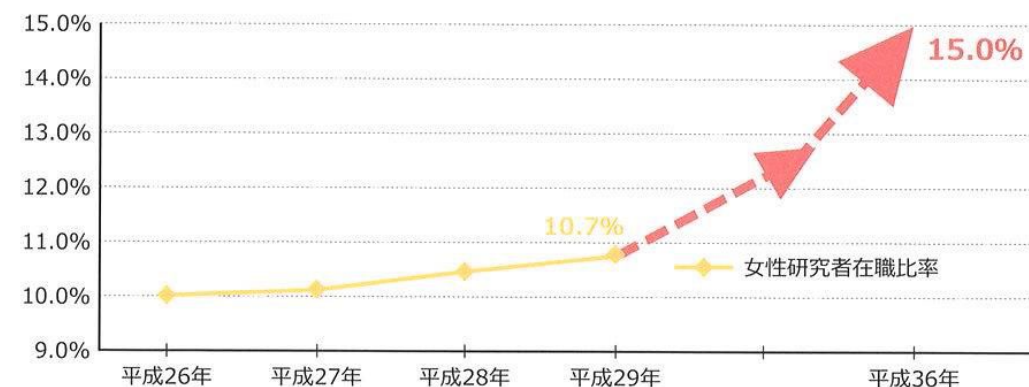
- ・女性研究者在職比率向上
8.0%（平成 25 年 5 月現在）→ 10.3%（平成 28 年度末）
- ・対策
 - ・女性限定公募の実施
 - ・新規常勤教員採用の女性比率 20%
 - ・事業期間内に 2 名程度の女性特任教員を企業より招聘

◆名古屋工業大学の女性の現状（平成27年5月1日現在）

女性研究者在籍状況		女子学生在籍比率		
教 授	5.0%	全学科	学 部	14.9%
准 教 授	5.1%		博士前期	10.6%
助 教	8.9%		博士後期	16.0%
特 任 教 員	28.6%			
特任研究員	20.0%	※女子学生の在籍比率が高い学科		
合計	9.1%	生命・物質工学科		30.4%
		建築・デザイン工学科		33.6%

◆事業終了後の目標

- 事業終了後
 - ・平成 29 年度末の女性研究者在職比率 10.7%
 - 事業開始から 4 年以内に 9 名の女性研究者を採用（85% 以上を理工系）
- 平成 36 年に女性研究者在職比率 15% を達成



平成27年度活動報告一覧

平成27年 4月 1日	センター事務室とi-cafe, ワークライフバランス相談室を移設 新規に次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定
4月 2日	NHK名古屋放送局が「ほっとイブニング」で“リケ女を支援人財バンク始まる”と題してOG人財バンクについて紹介
4月10日	NHK全国放送の「ニュースウェブ」“リケジョ支援の取り組み”と題して放映 NHK名古屋放送局が「おはよう東海」でOG人財バンク、OG研究支援員について放映
4月15日	平成27年度トヨタ女性技術者育成基金募集の説明会を開催（新入生対象）
4月30日	「名古屋工業大学女性研究者・技術者の会」立ち上げ
5月20日	男女共同参画推進トップセミナー（女性研究者支援と大学の活性化）を開催
6月 3日	平成27年度トヨタ女性技術者育成基金個人相談会開催
6月13日	オープンキャンパス、相談コーナーに参加
6月24日 ～ 29日	「男女共同参画週間」にあわせ、関連書籍の展示（名工大付属図書館）
6月24日	名古屋工業大学英語論文校正支援取扱要領制定 名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項制定 6/1から適用
6月29日 ～ 7月14日	「育児・介護のためのアンケート調査2015」実施
7月 7日	ニューズレター Vol.2発行
7月14日	名古屋工業大学女性研究者表彰「女性が拓く工学の未来賞」実施要項制定
7月21日	第1回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成講座」入塾式 特別講演会開催（14企業29名が参加）
8月 3日	「科学英語論文の書き方セミナー」開催（参加者58名）
8月 4日	オープンキャンパス、相談コーナーに参加
8月 4日	第2回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催

8月18日	第3回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
9月 1日	第4回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
9月 9日	千種シッターサービスとの契約内容変更 条項追加 （1利用あたり700円の補助 10月利用分から）
9月15日	「在宅勤務による研究支援業務実施要領」制定
9月15日	第5回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
9月29日	第6回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
10月 3日	女子学生のためのテクノフェスタに参加
10月13日	第7回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」開催
10月21日	名古屋工業大学女性研究者表彰「女性が拓く工学の未来賞」（優秀賞、奨励賞）表彰式
10月27日	第8回「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成講座」卒塾式
10月28日	女性研究者支援活動事業（一般型）中間報告シンポジウム「工学系女性研究者をいかにして増やすか、先進的取組事例の紹介と課題」を開催 （参加者約70名）
10月28日	中日新聞朝刊 18面に女性技術者リーダー養成塾卒塾式について掲載
11月 7日	オープンキャンパス・女子学生のためのテクノフェスタに参加
11月18日	ワークライフバランス相談室メールマガジン第1号発行
11月21日	名古屋工業大学ホームカミングデーに参加 OG人財バンク登録呼びかけ
11月25日	「女性研究者と女性技術者のワークライフバランスの推進」のシンポジウムを開催 キャリアサポートセンターと共催（参加者約50名）
11月12日 ～ 25日	「女性研究者と女性技術者のワークライフバランスの推進」のシンポジウムと「女性に対する暴力をなくす運動」に関連する書籍展示（名工大付属図書館）
12月 9日	ワークライフバランス相談室メールマガジン第2号発行
12月16日	第1回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 （参加者 学長、理事1名、女性研究者・技術者15名）

12月25日	「科学英語論文プレゼンテーションセミナー」開催（参加者44名）
12月25日	ニュースレター Vol.3発行
12月28日	名古屋市女性の活躍推進事業に認定され優秀賞を受賞
平成28年 1月13日	女性研究者支援事業シンポジウム「ものづくり王国あいちにおける女性の活躍推進に向けた取組について」開催 キャリアサポートオフィスと共催 参加者約100名
1月16・17日	センター試験業務時、一時保育サービス実施（利用者3名）
1月20日	「出産・育児支援制度に関する説明会」開催（人事課と共催 参加者7名 一時保育サービス利用1名）
1月25日	女性研究者ロールモデル集製作に向けた取材を開始
1月27日 ～ 2月15日	男女共同参画推進に関するアンケート実施
1月27日	ワークライフバランス相談室メールマガジン第3号発行
1月29日	名古屋市女性の活躍推進企業表彰式に参加
3月11日	第2回女性研究者・技術者の会 ランチミーティング開催（参加者9名）
3月24日	FD研究会「工業大学における教養教育を考える中国北京化工大学の事例紹介」開催

4つのミッションとその主な取り組み



ミッション1 女性研究者支援

研究支援員制度

男女を問わず、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のため十分な研究時間が確保できない教員等に研究支援員を配置することで生活と研究業務の両立が図れるように支援していくものです。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす人が利用できます。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者または、要介護者がいるもの
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由によりとくに研究業務の支援を必要とするもの

研究支援員の身分は、パートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは本学の大学院に在籍する学生、または本学の卒業生とします。「学生研究支援員」の勤務時間は、1週間あたり19時間を上限とします。「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内とします。

平成27年度利用者数 …… 4名（男性教員も、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由により研究業務の支援が必要な場合は、利用していただいています。）

◆制度を利用して

名古屋工業大学助教
孫 晶さん

昨年春に第2子の産休から復帰した後、研究支援員制度を利用させて頂いています。研究したい、教育したい自分は、育児もしなければなりません。研究支援員の援助により、データ整理や資料作成が加速され、研究に専念できる時間を確保するこ

とができています。そのおかげで、昨年には、国際会議と国内研究会での論文発表ができた他、学術誌での論文掲載もできました。本当に大変感謝しております。ワークライフバランスにおいては、仕事と育児の両立は大きな課題だと言われていいます。このような支援体制が継続的なものとなれば、若い研究者の皆さんも安心して仕事が続けられると思います。



◆研究支援員の声

名古屋工業大学出身
森 優奈さん

前職を退職後、次も技術に携わる仕事をしたいという思いがありました。

そのとき、この研究支援員のお話をいただきました。

学生時代に学んだ分野とは少し違うこともあり、不安もありましたが、勉強しつつ、まずはできることからという言葉をいただき、研究支援員を始めました。

母でありながら研究者としても努力される孫先生のお姿からは、研究のこと以外にも学ぶこ

とが沢山あり、ありがたく思っております。

来年度からはより、専門的なことに挑戦するつもりでいます。今後も孫先生の研究に貢献できるよう努めてまいります。



研究支援員制度に「OG人財バンク」の活用

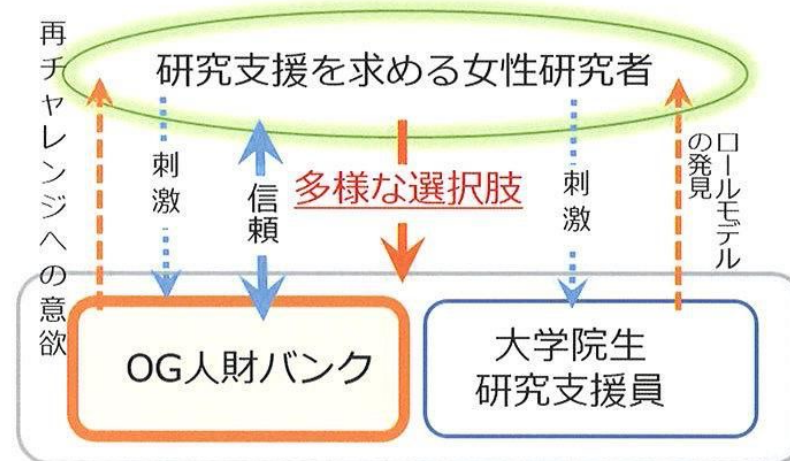
女性研究者支援にOG人財バンクイーネット

女性研究者の支援の1つとして始動したのがOG人財バンクであり、最大の特徴は本学の女性卒業生が対象という点です。

本学を卒業して就職しても出産や子育てなどで離職すると、大学で学んだスキルを活かした再就職は難しいという現実があります。そのような何らかの理由で第一線を退かれている方たちを、ライフイベントに直面して支援を必要としている本学女性研究者の研究支援補助を行う研究支援員として雇用する仕組みです。

OGを研究支援員として配置することで、本学で培った専門性を活かした高度な支援が可能となり、研究者にとっては即戦力となることが期待できます。また、研究職や技術職に再就職できずにいたOGにとっては再チャレンジへの意欲ときっかけをつかむ絶好の機会になると考えられます。

●「OG人財バンク」の構築による支援員制度の拡充



◆利用方法

女性卒業生の皆様を対象に、登録窓口を設け登録をお願いしています。

<http://www.nitech.ac.jp/gender/>

◆登録手順

- ・卒業時
ポータルにログイン後、統一データベース>進路情報の表示・編集>活動支援>OG人財バンク登録
- ・既卒者 (OG)
HPのOG人財バンク登録画面に登録事項を記入し送信

活用事例

OG研究支援員としての雇用だけでなく、第一線で活躍している人には、男女共同参画に関する講演等をお願いするほか、ロールモデルとして広報誌で紹介するなど人財情報源として活用したいと考えています。

その他、登録者にはセミナーや講演会の開催等、キャリア支援に有用な情報を随時届けると共に、登録されたOGが情報を共有し、ライフステージやニーズに応じた活躍の場を拡げる情報共有プラットフォームとして拡充していきます。

英語論文校正支援制度

男女を問わず、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のため、十分な時間が確保できない教員等が英語論文の校正を委託する際にかかる経費を支援することにより、教員等の生活と研究業務の両立が図れるように支援する制度です。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす人が利用できます。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者または、要介護者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

一件につき上限を3万円とし、1名につき年間3件までとしています。
ただし、予算等の条件により、支援内容が制限される場合があります。

平成27年度利用者数 …… 7名 11件

男女を問わず、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のため、十分な時間が確保できない教員等が英語論文の校正を委託する際にかかる経費を支援することにより、教員等の生活と研究業務の両立が図れるように支援する制度です。

英語論文セミナー

研究業績向上支援の一環として女性研究者などを対象に、2回の英語論文セミナーを開催しました。

第1回 科学英語論文の書き方セミナー 平成27年8月3日

小野義正先生（理化学研究所客員主管研究員）による、科学英語論文書き方セミナーを開催し、58名が参加しました。

午前の部では、「英語の発想法と論文執筆の鉄則」と題した講義が行われ、日本語と英語の構造の違いや英語で論文を書くときの論理の組み立て方に関して講演していただきました。

また、午後の部では、「英語論文の作文技術と文法事項」と題した講義が行われ、論文執筆の際に注意すべき冠詞や前置詞の使い方など、すぐに実践できるテクニックの詳しい説明を受けました。

参加者からは、「英語と日本語の発想が根本的に違い、それが英文解釈にどう影響するのかがよくわかった。」「英語論文を書く際の心得をご教示いただき、大変参考になった。」「豊富な具体例をもとに、細かい注意点を事例で学べて大変わかりやすかった。」等の前向きな意見が多数出されました。



第2回 科学英語論文のプレゼンテーションセミナー 平成27年12月25日

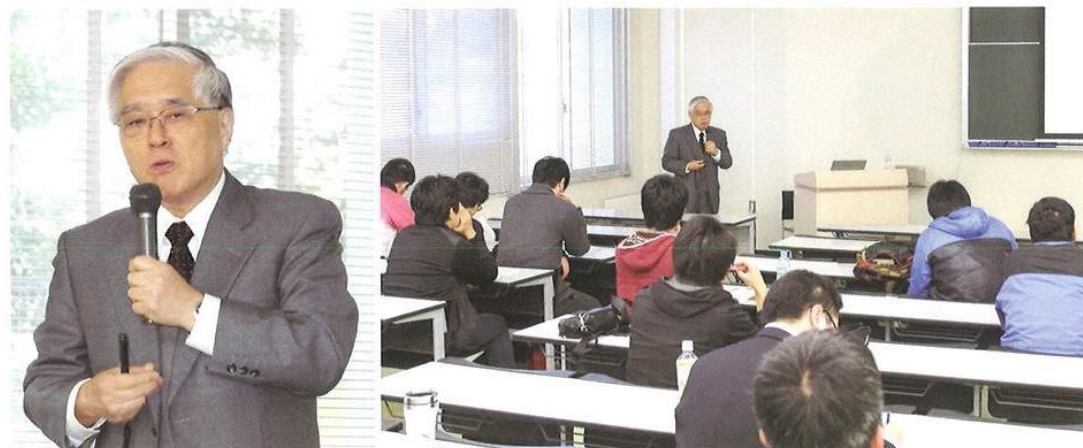
小野義正先生（理化学研究所客員主管研究員）による科学英語論文のプレゼンテーションセミナーを開催し、44名が参加しました。

第1講義の「英語口頭発表の基礎と準備」では、英語による口頭発表の心構えやテクニック、講演（口頭発表）と論文（印刷発表）の違いなど、これから英語によるプレゼンテーションをする人にもわかりやすい内容でした。

第2講義の「口頭発表の実践ポイント1」では、実際のプレゼンテーションの流れにのっとり、決まり文句や図表などの説明の仕方、発音方法など実際のプレゼンテーションに役立つ内容でした。

第3講義「英語口頭発表の実践ポイント2」では、口頭発表終了後の質疑応答の対応の仕方やポスターセッションの際の発表のテクニックに関する内容でした。

参加者からは、「日本語と英語のプレゼンテーションでは、スライドの構成などにも大きな違いがあることがわかった。」「実践的な内容で、使える表現がまとめられていてとても参考になった。」「英語に限らず、口頭発表のポイントがよくわかった。」等の意見が挙がりました。



育児支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項を制定し、本学教職員、学生が育児と仕事や勉学、研究活動を両立していくために十分な時間が確保できるよう支援しています。

以下の2種類の支援を行っています。

〈厚生労働省による平成27年度ベビーシッター派遣事業の割引券利用〉

公益社団法人全国保育サービス協会を通じて国が実施している平成27年度ベビーシッター派遣事業の割引券の使用に関する企業の承認を受け、利用者の負担を軽減しています。

割引の内容

サービス利用時に割引券を提示することで、1家庭につき1日（回）あたり1,700円の割引が受けられます。※利用料金が1,700円以下の場合には利用できません。

利用可能枚数

1日（回）につき1家庭1枚まで（1か月24枚、1年280枚まで）

利用対象者

- ・本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります。）
- ・前年度の給与収入が960万円未満の方

利用対象となる子ども

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

利用の条件

- 利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合
- ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合
- ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者に限る

平成27年度利用枚数 …… 79枚

〈大学契約ベビーシッターサービス〉

本学から最寄り（東北へ徒歩5分）の保育施設である、「千種シッターサービス」と会員契約を結びシッター派遣サービスおよび保育ルームの利用負担を軽減しています。

本年度からは契約変更により費用の一部を補助しています。

利用対象者

本学教職員、学生

割引の内容

シッター派遣サービスおよび保育ルームを会員価格で利用できます。また、本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります。）が利用する場合は、1回の利用ごとに700円の補助が受けられます。

利用対象となることも

- ・乳幼児又は小学校3年生までの児童
- ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童

利用の条件

利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労（就学）継続することが困難な場合

利用内容

ルーム利用、シッター派遣

平成27年度利用者数 2名 32回

2. センター試験業務時等の一時保育サービス

平成28年1月16日、17日の両日に行われた大学入試センター試験の際に、試験業務等に従事する教職員の子を預かる、託児サービスを実施しました。教職員3名（子供3名）の利用がありました。

大学入試センター試験における一時保育サービスは昨年に続き、2度目の試みでした。

1月20日の「出産・育児支援制度に関する説明会」でも育児休業中の方が子供連れで参加され一時保育サービスを利用しました。

また、セミナー、シンポジウム開催の際にも、希望があれば託児を行います。



ミッション2 問題発見・解決

ワークライフバランス相談室

あらゆる悩みに対する相談・問題解決を担うワンストップ窓口を目指しています。

専属の相談員が、研究とライフイベントの両立、子育てや人間関係など、あらゆる悩みのインテークを行い、将来設計に関する誘導と解決を図ります。また、必要に応じて、連携する保健センターやハラスメント相談員とも協力して、迅速な問題解決を図ります。



ワークライフバランスに関するメールマガジンの発行

ワークライフバランス相談員による、経験談やよもやま話などを盛り込んだメールを毎月女性研究者に配信し、ワークライフバランス相談を気軽に利用していただくよう呼びかけました。

第1号 11月18日配信

第2号 12月9日配信

第3号 1月27日配信

第4号 2月27日配信

第5号 3月23日配信

育児・介護に関するアンケート実施 平成27年6月29日～7月14日

本センターが取り組む事業の1つとして、研究と、育児・介護を両立しやすい労働環境の整備があります。そこで、教職員・大学院生・研究生を対象に、育児・介護の現状と必要とされる支援等について把握するためにアンケートを実施しました。

その結果、病児・一時保育先・延長保育等の預け先を探すのに苦労しているという意見や制度を利用できる雰囲気作りと、利用した際の仕事のフォローをしていく体制づくりが必要だという意見等がありました。

出産・育児支援制度に関する説明会を開催 平成28年1月20日

出産・育児の支援を広く周知するため、また仕事と育児の両立支援に対する要望や意見を聞くために人事課との共催で説明会を行いました。

降雪の中の開催でしたが、7名が参加しました。

始めに藤岡センター長から自身の育児経験をふまえ、参加者の皆様には育児期もぜひ働き続けてほしいという話がありました。続いて男女共同参画推進センターWLB相談員の菊池より本学の育児制度について理解いただくことのほかに、育児期女性同士が関わり合い、悩みを相談できる関係性を作ることが重要であり、かかわりを持つきっかけとしてこの説明会を利用してほしいという説明がありました。

その後、人事課労務係より制度に関する説明が行われ、活発な質疑応答、参加者同士の意見交換がありました。ランチ会へは6名が参加し、子供を抱えて働くことに関して出席者同士のディスカッションが行われました。

併設されている保育コーナーでの一時保育サービス利用者は1名でしたが、子供を預け、説明会に集中できているようでした。

説明会後に取ったアンケートでは、「今回の説明会により人事制度に関して理解が深まった」や、「今後、支援制度利用者や育児経験者の話が聞ける座談会を開催してほしい」といった意見がありました。



ミッション3 女性研究者コミュニティ形成支援

交流サロン i-cafe

11号館311室に、i-cafeと称した交流サロンを設けています。女性が各部局に分散して孤立した状況に陥りがちであることから、このような特別な空間を設け、女性研究者同士の交流や相互の相談の場として利用いただいています。博士後期課程学生にも開放することにより、博士後期課程学生と女性研究者との交流が進み、博士後期課程学生が研究者を志すことが想定され、裾野拡大に繋がることも期待できます。

説明会の会場として、また名工大女子学生団体 彩綾～SAYA～のセミナーの会場としても利用されています。



女性研究者・技術者の会設立

工業大学では女性研究者・技術者は少数派です。同じ大学でありながら、所属が異なるとコミュニケーションを図る機会が少なくなりがちです。

女性研究者・技術者の会は、女性のネットワークを作るだけでなく、研究・教育・学内事務・学会活動・社会活動・家庭とのバランスなど、日ごろ、個人的に抱えている問題を、会のメンバーで共有し、本学の女性研究者・技術者を取り巻く環境整備に取り組んでいきたいと考え設立しました。

数少ない女性研究者・技術者が互いに交流を深め、横のつながりを強固にし、いざというときに互いに手を携え、助け合える関係性の構築を目指すことが本会の主旨です。

平成28年3月1日現在、26名の女性研究者・技術者が登録しています。

第1回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 平成27年12月16日

「女性研究者・技術者の会」のファースト・ミーティングを大学内のカフェで行いました。

15名の女性研究者と技術者が参加しました。

初回ということで、鶴飼裕之学長と湯地昭夫理事にもご参加いただきました。ごあいさつの中でお二人は、会の今後の発展と継続に向けて、意欲的に進めてほしいと述べられました。その後、女性研究者・技術者のみなさんは、昼食をとりながら親睦を深めました。

終了時には、アンケートを実施し、女性研究者・技術者の要望をくみ取るようにしました。まず、大学に望むこととしては、18号館の女子トイレが少ないこと、男性の意識改革、男性教員を含んだ教育、色々な補助や援助を准教授以下にせず、教授にも適用してほしいなどでした。また、本会で行ってほしいイベントとして、他大学、企業の女性団体との交流、(輪番制の)研究紹介、技術紹介などが挙げられていました。ほかに、定期的なミーティングをしてほしいという要望もありました。



第2回女性研究者・技術者の会ランチミーティング開催 平成28年3月11日

i-cafe (11号館3階)にて、2回目のランチミーティングを開催し、9名の女性研究者・技術者が参加しました。今回は、「多様な性(LGBT)と大学教育～多様性顕揚の陰で～」と題して、名古屋短期大学現代教養学科の綾部六郎先生に30分程度講義をしていただきました。このような内容のお話を聞く機会は、本学でほとんどないため、ランチミーティングに参加した先生方は、これまでの学生対応などの経験を踏まえ、活発に意見交換をしていました。

近年は、学生自身も自身の性自認、性指向をカミングアウトする人が多く、また来年度からは障がい者差別解消法施行などの動きもあります。綾部先生は、大学教育においても、性的マイノリティに対する配慮を求める動きがあると述べられました。参加した先生方からは、有意義な時間であったという感想が多く聞かれました。



女子学生団体 彩綾～SAYA～

女子学生が自らのキャリアパスを、自ら考え、切り開き活動している団体です。

学科・学年をこえた繋がりの中かで、女子学生向けの情報誌を発行したりOGとの交流会やイベントを計画し、女子学生が、学生生活から就職活動そして卒業まで輝いていこうと活動しています。

今年度のイベント

- ・DENSO 基礎研究所見学会 (4月17日開催)
- ・アイシン・エイ・ダブリュ女性限定セミナー (6月11日開催)
- ・オープンキャンパス参加 (6月13日開催)
- ・オープンキャンパス参加 (8月4日開催)
- ・第2回女子学生のためのテクノフェスタプレゼン (10月3日開催)
- ・オープンキャンパス・テクノフェスタプレゼン (11月7日開催)
- ・「女性研究者と女性技術者のワークライフバランスの推進」シンポジウム (11月25日開催)
- ・アイシン・エイ・ダブリュ女性限定セミナー (12月14・15日開催)
- ・トヨタ女性技術者育成基金受給者交流会 (12月17日開催)
- ・その他実施した企画
(新入生歓迎会、流しそうめん会、夏合宿、各キャリア系イベント参加、中部経済産業局取材参加など)

このような積極的な活動が学内で認められ、3月2日に学長表彰を受けました。



男女共同参画推進トップセミナー「女性研究者と大学の活性化」を開催

平成27年5月20日

女性研究者研究活動支援事業（一般型）に採択されて初めての「男女共同参画推進トップセミナー（女性研究者支援と大学の活性化）」を開催しました。このセミナーは、平成26年度に採択された文科省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の一層の推進と、男女ともにその能力を發揮し、働きやすい環境等を実現するために、学長、役員、教育類長、専攻長をはじめとする人事企画院構成員を対象に実施しました。

鶴飼裕之学長が開会挨拶の後、小畑誠副学長が本学の達成目標と現状について、また男女共同参画推進センターの乙部由子統括コーディネーターが、本学における実施体制と主な取り組みについて説明しました。

続いて、国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏が「女性研究者支援事業の実績と今後の動向」と題して、日本の女性研究者の現状、女性研究者支援事業の推進、女性研究者支援事業の実績と今後の課題、名古屋工業大学への期待について講演されました。特に、自然科学系分野のなかでも工学系及び上位職階の女性教員の割合が少ないことを指摘されました。最後に本学への期待として、事業終了後は、女性教員の在籍比率の目標値の達成を期待していると締めくくられました。

講演後には、質疑応答の時間が設けられ、女性教員の支援だけをするのではなく、いずれは男女共同参画の推進という視点から男女がともに研究しやすい環境の実現を目指してほしいという意見が聞かれました。

最後は、同センター長藤岡伸子教授の挨拶で閉会しました。



女性研究者研究活動支援事業（一般型）中間報告シンポジウムを開催

平成27年10月28日

女性研究者研究活動支援事業（一般型）の中間報告シンポジウムを開催しました。学内外教職員、学生をはじめ、約70名が参加しました。

男女共同参画推進センター長藤岡伸子教授の司会進行のもと、鶴飼裕之学長の挨拶で開会し、はじめに「第1回女性が拓く工学の未来賞」を昨年度受賞した小幡亜希子准教授がセラミックバイオマテリアルに関する研究を紹介しました。その後、乙部由子統括コーディネーターがこれまでの事業の進捗を報告しました。

続いて日本大学生産工学部野呂知加子教授に「工学系女子学生を増やし、女性エンジニアを育てよう！～日本大学のキャリアウェイモデル～」という演題で日本大学の取組と現状について講演いただきました。日本大学では、次世代女性研究者育成として、女性の学生の入口（理系選択）から出口（理系大学院進学から女性研究者への道）までをサポートし、さらに女性研究者の増加と地位向上のため、研究補助者の配置やネットワーク形成促進などを行っている旨をお話いただきました。

その後、増田理子准教授の司会のもと、本学副学長の江龍修教授、株式会社環境アセスメントセンター代表取締役の河合恒一氏、トヨタ自動車グローバルデザイン企画部主幹の山和紀久子氏をパネリストに迎え、パネルディスカッションを行いました。

江龍副学長は教育者の視点から、創造される価値に意味があるのであって「性」が価値を生み出すのではないこと、また、女性と男性が共に未来のビジョンを共創していく社会を、教育を通じて作り



上げる意識の醸成が、女性エンジニアの育つ土壌を確かにする鍵であるとしてしました。

河合氏からは、夫婦での一括採用の試みなど、女性技術者のライフイベントと仕事の両立を積極的に図っている様子や、1人ひとりの持ち味を活かす取組が紹介されました。

山和氏からは、結婚、出産、育児といったライフイベント期に、どのようにして仕事と両立したかという自身の経験談の他、本人だけでなく周りを取り込んで成果を出せる働き方を実現させるためのトヨタの取組が紹介され、男性も女性も、共に意識を変えていこうとの呼びかけもなされました。

質疑応答では、女性研究者から、「女性支援」という言葉に対し、「女性の優遇ととらえられやすく、逆に違和感を覚える」という発言が出されたことに対し、江龍副学長は、これまでの日本の慣習からしてまだ女性支援の必要性が周知されていないところへの発信であると述べられました。また、女性研究者たちからは、決して女性の優遇を望んでいるのではなく、女性も能力を十分発揮できる研究環境の整備こそが望まれるとの声も上がりました。

最後は、本学の湯地昭夫理事によるあいさつで締めくくりました。

シンポジウム「女性研究者と女性技術者のワークライフバランスの推進」を開催 平成27年11月25日

女子大学生・院生を対象として、キャリアサポートオフィスとの共催で、企業の技術者や教員、大学院生によるライフスタイルと研究についてのパネルディスカッションを行いました。約50名が参加しました。

はじめにキャリアサポートオフィス長の山下啓司教授から、本学の就職活動の現状や、工学系女子学生への産業界からの期待に関するお話と、本学的女子学生団体彩綾～SAYA～の活動に関する紹介がありました。また、トヨタ女性技術者育成基金主幹の堀川達弥氏から基金に関してご紹介いただきました。次に、リクルート未来研究所所長の岡崎さんによる講演の岡崎仁美氏から「近年女性技術者の就労環境、およびワークライフバランスに関して」という演題で講演いただきました。女性が働き続けるためにどのように社会が変化し、職場の環境が変化しているのか、また、ご自身の体験も踏まえ、キャリアパスとワークライフバランスに関してお話いただきました。

その後、岡崎仁美氏のコーディネートの下、本学の研究者である武藤敦子助教と、技術者である株式会社デンソー基礎研究所環境材料研究室長の伊藤みほ氏、本学大学院博士後期課程3年の前野万也香さんによるパネルディスカッションが行われました。研究者、技術者、大学院博士後期課程の学生、それぞれの視点で、進路選択の経緯や仕事観、ワークライフバランスに関してざっくばらんな本音のお話を伺うことができました。

進路選択を控えた女子学生にとって、自身の将来をイメージする貴重な機会となりました。



女性研究者支援事業シンポジウム

「ものづくり王国あいちにおける女性の活躍推進に向けた取組について」を開催
平成28年1月13日

女性研究者研究活動支援事業（一般型）のシンポジウム「ものづくり王国あいちにおける女性の活躍推進にむけた取組について」を開催し、教職員、学生、一般から約100名が参加しました。

はじめに愛知県副知事の堀井奈津子氏に「ものづくり王国あいちにおける女性の活躍推進にむけた取組について」と題して講演いただきました。現在、女性活躍推進法が制定され、女性研究者などを支援する仕組みづくりは必須です。そのような中、ものづくり王国といわれる愛知県でも将来の研究者になりうる可能性の高い、優秀な工学専攻の女子学生の確保が喫緊の課題であるとされました。また、全国、および愛知県の状況を比較しながら愛知県の特徴と取組を紹介いただきました。

続いて、「企業における女性のキャリア形成の現状」という演題で、日本アイ・ピー・エム株式会社 IBM セキュリティ セキュリティ・サービス・デリバリー理事の我妻三佳氏に講演いただきました。IBM は人材の多様性を重視しており、その中で理系女子の優れた点として、プロ意識が高く離職率が低いことや女性ならではの感性が武器になっていることを挙げられました。また、これから社会に出る学生に向けて、英語力やコミュニケーション能力をつけること、時間のある学生のうちにもっと勉強しておくことをアドバイスし、自分を信じプライドを持って頑張ってもらいたいと締めくくられました。

後半のパネルディスカッションでは、本学キャリアサポートオフィス長の山下啓司教授がファシリテーター、情報工学専攻の武藤敦子助教がコメンテーターを務めました。パネリストにはトヨタ自動車（株）、トヨタホーム（株）、（株）ノリタケカンパニーリミテド、リンナイ（株）に勤める4名の名古屋工業大学 OG を迎えて活発に意見交換が行われ、質疑応答では、ライフイベント期に仕事と家庭生活（育児）を両立していけるか不安であるという女子学生に対し、パネリストたちは、考える前にまずはやってみることを勧めていました。



ものづくり企業のための「女性技術者リーダー養成塾」を開講 7月～10月 全8回

本センターとイーブルなごや（名古屋市男女平等参画推進センター・女性会館）指定管理者アイ・コニックグループが主催となって「女性技術者リーダー養成塾」を開講しました。

製造業に勤めている意欲的な女性技術者を対象に、女性技術者がリーダーとして活躍するために必要なスキルを学ぶとともに、それぞれのキャリアデザインをともに考える機会となるよう、キャリアコンサルタントやものづくり専門講師による講座が開かれました。

第1回	入塾式・オリエンテーション 特別講演会「女性の力を経営に活かすには」 「経営戦略としての女性活躍推進」 高松和子氏 （公益財団法人 21世紀職業財団 業務執行理事兼事務局長） 「経営は人を活かすことなり」 浜田恵美子氏（名古屋工業大学大学院産業戦略工学専攻教授）
第2回	男女平等講座「職場における男女平等」 椋山女学園大学 准教授 小倉祥子氏 キャリアデザイン講座 1「自己分析①～未来の私をイメージする～」 二級キャリア・コンサルタント 市川麻波氏
第3回	ロールモデルによる講演 豊橋技術科学大学教授・学長特別補佐 中野裕美氏 トヨタ自動車株式会社グローバルデザイン企画部主幹 山和紀久子氏 ロールモデルとの座談会 キャリアデザイン講座 2「自己分析②～私らしく働き続けるためには」 二級キャリア・コンサルタント 市川麻波氏
第4回	リーダー養成講座 ～「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える～ 名古屋工業大学大学院教授 仁科健
第5回	リーダー養成講座 ～「ボカミス」をテーマにものづくりの安全を考える～ 名古屋工業大学大学院准教授 神田幸治
第6回	リーダー養成講座 ～「こころ」をテーマにものづくりの職場を考える～ 名古屋工業大学大学院教授 鷲見克典
第7回	キャリアデザイン講座 3「リーダーとしての心構え」「ストレスマネジメント」など 2級キャリア・コンサルタント 市川麻波
第8回	卒塾式・報告会（修了証書授与・行動計画） 特別講演会「女性技術者への期待」 「世界の女性エンジニア達」森松工業株式会社取締役 西村今日子氏 「経営に活かす女性の力」株式会社光機械製作所代表取締役社長 西岡慶子氏

参加企業 株式会社アイサク、エイベックス株式会社、株式会社デンソー、KTX株式会社、共和産業株式会社、株式会社セキソー、日本特殊陶業株式会社、ホーユー株式会社、ブラザー工業株式会社、フタバ産業株式会社、トヨタ紡織株式会社、ナプテスコ株式会社、日東電工株式会社、林テレンプ株式会社（順不同）

全8回にわたり受講した参加者は、お互いが語り合うなか、女性の悩みやアイデアなどを共有し、素晴らしい仲間との出会いとなったようでした。

各カリキュラムの感想として、キャリアデザイン講座では、自己分析を通して自分自身を見つめ直し、自身のキャリアの実現を考える内容で、「自分が働くことについて、深く考え、見つめ直し、想像することができた」などの声が、また、ロールモデルとの座談会では現場での生の声や、経験談が聞ける貴重な機会となったという声が聞かれました。そして、本学の教授・准教授が講師を務めたリーダー養成講座では、実際に自身の業務に係る内容も多く、「経験のない学生時代ではなく今聞けて良かった」「グループワークを参考に若手の教育に取り組みたい」といった声が聞かれました。



図書貸し出し

男女共同参画推進のためにセンター所蔵の男女共同参画推進関係図書の貸し出しを行っています。また、平成25年3月から独立行政法人国立女性教育会館の図書パッケージ貸し出しサービスを利用し、3か月ごとに貸し出し図書の入れ替えをしています。

場所

i-cafe 11号館3階311室

開室時間

平日9時～17時

蔵書

センター所有の蔵書 88冊
国立女性教育会館パッケージサービスの図書

室内閲覧

図書は、i-cafe 11号館3階311室にて、閲覧ができます。

貸出対象者

本学の学生及び教職員

関連図書については、セミナーや説明会、その他でi-caféを使用の際に、閲覧や貸し出しの利用がありました。

6月には内閣府の男女共同参画週間と連動し「名工大の男女共同参画週間 in 付属図書館」と銘打ち関連図書を付属図書館に展示し、また11月にも「女性研究者と女性技術者のワークライフバランスの推進」のシンポジウムと内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」に関連する図書を、付属図書館に展示して、書籍の閲覧、貸し出しを呼びかけました。

6/23～6/29
男女共同参画週間図書貸し出し



男女共同参画推進週間ポスター 図書館ブース

11/12～11/25
女性に対する暴力をなくす運動図書貸し出し



女性に対する暴力をなくす運動ポスター 図書館ブース

女性が拓く工学の未来賞

「女性が拓く工学の未来賞」は優れた研究業績をあげることが期待される名古屋工業大学の若手女性研究者を表彰することによりその研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図りこれにより本学の男女共同参画の推進に資することを目的として、平成 26 年度に創設しました。

今年度からは、新たに「優秀賞」と「奨励賞」の 2 枠に制度が拡大され各 1 名を選定しました。

「優秀賞」は学術上優れた研究成果を上げ、工学における女性研究者の社会的プレゼンス向上に貢献したと認められる方、「奨励賞」は学術上優れた研究成果を上げることが期待される方としています。原則として毎年度受賞者を表彰し副賞を授与いたします。

本年度は、優秀賞として吉田奈央子先生（若手研究イノベーター養成センターテニユアトラック助教）、奨励賞として前野万也香さん（共同ナノメディシン科学専攻 博士後期課程 3 年）が受賞し 10 月 21 日に表彰式が行われました。

吉田奈央子先生は環境微生物分野において、有機ハロゲン還元する脱ハロゲン化呼吸微生物研究、導電性炭素を用いた微生物の電気化学的な代謝制御研究、また水環境の物質循環に果たす微生物機能研究において優れた実績を有しています。本学着任以降は導電性炭素を微生物担特性の電極として用い、有機物の微生物による酸化反応で生じた電子を従来の曝気酸素に代わり電流として電極に回収する排水処理術の開発に取り組み、今後さらなる活躍が期待される研究者です。

前野万也香さんは研究室配属時より、サリドマイドを主軸として研究を行っています。作用機構が完全には解明されていないサリドマイド機構の解明に迫る自己不均一化現象を発見し、科学分野のみならず、薬学的にも非常に有意義な知見を得ることに成功しています。モレキュラー・キラリティ 2013 シンポジウムでは、優秀ポスター賞を受賞、2014 年には本学基金による学生研究奨励副学長賞を受賞、また、フランスの大学である INSA Rouen との共同研究も実り、エッフェル奨学金を獲得しました。フランスへの留学期間中にも、有用な化合物の新規合成方法を開発するなど、今後の更なる活躍と研究成果が期待される研究者です。



名古屋市女性の活躍推進企業に認定 優秀賞受賞

名古屋市の、女性がいきいきと働ける職場づくりに意欲的な企業を認定する制度である「名古屋市女性の活躍推進企業認定・表彰制度」において、本学が優秀賞を受賞し、1 月 29 日の表彰式に参加しました。この制度は、各社の育児、介護休業の取得実施、女性の採用比率、管理職登用の目標値の有無などの評価により認定・表彰されるものです。今年度の受賞企業は、優秀賞 4 社、新規認定企業 1 社、従業員表彰 1 社で、平成 21 年度の制度開始からこれまでに累計 61 社が認定されています。

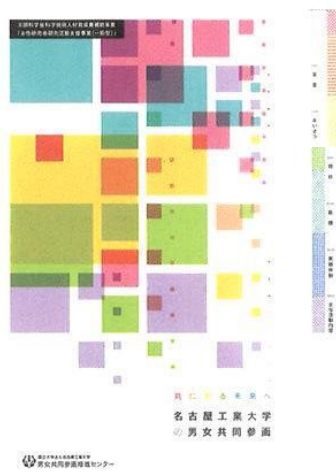
本学は、的確な現状把握に基づいた女性を支援する体制が整っていることと、学長自らが男女平等参画について発信するなど大学全体を通して女性の活躍推進に取り組んでいることが評価されての受賞となりました。名古屋市内の大学としては、平成 24 年度に優秀賞を受賞した名古屋大学と名古屋市立大学に続き 3 校目、工業大学としては初めて認定を受けました。

表彰式は名古屋市役所で行われ、鶴飼裕之学長と男女共同参画推進センター長藤岡伸子教授が出席し、表彰状と記念プレートが授与されました。名古屋市長河村たかし氏との懇談の際、鶴飼裕之学長は、「OG 人材バンク」の説明をし、女性研究者だけでなく、その支援をする OG のキャリア支援にもつながることを話しました。河村たかし市長からは、名古屋の女性活躍推進を牽引してほしいとの期待が述べられました。



パンフレット・リーフレットの作成

男女共同参画推進センターがどのような活動をしているのか、わかりやすくまとめたパンフレットとOG人材バンクのリーフレットを作成しました。イベント等で配布したり、送付物に同封するなどして学内外に本センターについての周知を図っています。



共に創る未来へ

名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

OG人材バンク i-net



ウェブサイトでのアピール

名古屋工業大学のホームページから男女共同参画推進センターのHPに入ることができます。

本学の企画広報課広報室と密に連絡を取り、常に最新の情報提供を心がけ更新しています。



文教ニュースへの掲載

センターで開催したシンポジウムやセミナーについて、文教速報や文教ニュースへの掲載を依頼し、学外へも周知を図っています。

男女共同参画推進センターのロゴマーク選定

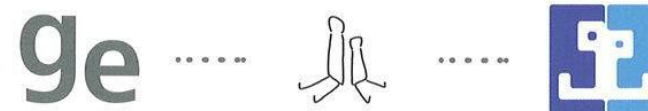
多数の案の中から建築デザイン工学科の津葉井一紀さんと斉藤琢磨さんによるデザインが選ばれました。

男女が背中合わせに座っているようすを「男女共同参画=gender equality」の頭文字g・eに見立てたデザインです。

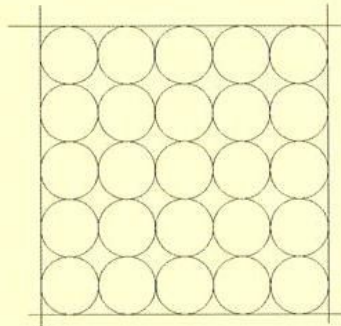


ニュースレターの発行

7月、12月、3月に発行し、学内外へ配布してセンターの取組を紹介しています。



文責：国立大学法人 名古屋工業大学
男女共同参画推進センター
スタッフ 内山晃子



国立大学法人 名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL & FAX 052-735-5121

E-mail : danjokyodo@adm.nitech.ac.jp

URL : <http://www.nitech.ac.jp/gender/>